

キャンバスにひろがる 記憶のかたち

ARTIST'S VIEW / インタビュー

衣 真一郎

KOROMO SHINICHIRO

特集「まえばし古墳探検隊」

アーティストコラム 三輪途道

ARTIST'S VIEW

衣 真一郎
KOROMO SHINICHIRO

衣さんが滞在中に訪れた場所で撮影したスナップ。



1



2



3



4



5



6

聞き手：遠藤千尋

INTERVIEW

故郷の原風景
一振り返ると、見えてくるもの。
LANDSCAPES REDISCOVERED AFTER SPENDING YEARS.

山や田畑といった故郷に広がる自然の風景や、自分の記憶の中にある様々な題材から着想を得て、油彩絵具を厚く塗り込んでいく手法で絵画を制作する衣真一郎さん。大学院を卒業後、都内を中心に精力的に活動する中、2017年8月よりアーツ前橋「群馬県ゆかりのアーティストによる滞在制作事業」の招聘アーティストとして滞在制作を行うことになった衣さんに、作品制作への姿勢や地元群馬でのリサーチを通してやりたいことなど、お話を伺いました。

一作品制作はどのくらい前からしているんですか？
小さいころからいろいろなものを作っていました。小さいころからいろいろなものを作っていました。今のような表現を始めたのは、受験時代に浪人して、基礎的なデザイン力を身につけてからですね。学部2年生くらいの時から今の作風のようにになりました。色々と好きな作家はいて影響も受けたんですが、やっぱり写実表現だとリアリティがなくて。写真を撮ればいいんじゃないかと思ってしまう。今のような表現が、自分には合っているなと思いました。
一今の表現に至るまではいろいろなスタイルを試したり、模索したりしたんですか？
模索したというよりは、全部ひと繋がりになっていて、ずっと描き続けてきたんですね。いろいろなタイプの作品を作る人もいると思うんですが、自分は2010年頃から1冊のポートフォリオでまとめている。一からまとまって見られるのがすごいよねと言われた



Photo: 上原川

ことがあります。
一好きな作家の絵を見て、どのような影響を受けましたか？
客観的に判断するためにいろいろな作品を観ないといけないと思っています。同級生やアトリエの仲間の作品や、ギャラリーや美術館に展示されている過去の作家、現代の作家の作品など、なるべく観に行くようにしています。そこで自分と比較したり、これは自分にも出来るかなと考えたりします。特に影響を受けたのは、萬鉄五郎よろずですね。タッチや色使い、筆使いもそうですし、何より絵が生き生きしているところが好きです。
一萬とご自身の絵に、何か共通点や影響があると思いますか？
あると思います。畑を描いているところとか、彼も故郷の岩手の風景を大事にしているんです。一度東京へ行くんですが、岩手に戻って描いたりもして。西洋から初めて入ってきたものに影響を受けて作品が変化していくところとか、面白い時代だなと思います。日本で油絵を描く意味や、日本人が油絵を描く意味など、今の時代にも通じるテーマがありますし、じゃあ今僕はどのような絵が描けるのか、どう作品を残していくのかと、自分と重ね合わせることも出来ます。むしろ日本だけではなく、世界でも作品を発表したいという気持ちもあるんですが、そこでどうしたら戦っていくのかとかもそうですね。

一自然の風景を題材にした作品が多いのには、何か理由があるのでしょうか？
伊香保町の山の中で育って、山や畑の風景がとても身近だったので、それを描くことはごく自然な流れではないかと思っています。緑や茶色、黄土色など、植物や土を表す色を使うことが多いですね。
一ご出身である伊香保の風景を描くことが多いのでしょうか？
少しはあるのですが、それよりも住んでいた所が榛名山の上のほうだったので、生活していて赤城山や山の下にある景色が見えたりするんですね。そういう全体を俯瞰するような視点が日常的にあったので、それが作品に反映されているのかなと思います。あとは祖母の家が長野県の上田市にあって、りんごを作っているんですけど、そこで見た田んぼや畑の景色がすごく良くて、印象に残っていますね。
一作品を作る時はあらかじめ描く風景を決めたり、実際にどこかへ足を運んだりしますか？それとも、頭の中にあるイメージを膨らませて描くのでしょうか？
先にドローイングをして組み立てたり、構図を決めてから描いたりするんですけど、記憶だったり、生活の中での身体的な感覚からイメージして描いていくので、あまり場所を決めたり、写真を使ったりはしないですね。外に出て風景を見に行くことはあります。
一2016年の《Lying Landscape》という作品は、彫刻作品《Lying things》と一緒に展示されていますが、これはどういう意図があったんですか？
この作品は色の塊みたいなものを表現したいというのがあって、一個一個のタッチの重さのようなものを作ろうとしました。《Lying Landscape》は横たわる



《Lying Landscape》
2016年、油彩・キャンバス、227.3×363.3cm
撮影：加藤健



《Lying Things》
2016年、水彩・木、サイズ可変
撮影：加藤健

風景、《Lying Things》は横たわるものという意味です。見方を変えると横たわっているものは人間のようにも見えてきます。寝ているような、死んでいるような。床置き作品なので、観に来た人は周りから見たり、中に入って見たりもしていました。
一《Lying Landscape》のように、古墳のような形のものが登場する作品がいくつかあるようですが、古墳にはよく行ったりするのですか？
よく行くというわけではないんですが、絵を描き始めた大学時代、あまり意図せずに描いていたら、ある日先生に「古墳描いてるのか」と言われて。自然と手を動かしていたら古墳の形になっていたんです。今は逆に、始めから意識して古墳を題材にしてみると面白いかもしれないと思っています。形も面白いですし、普通に暮らしている横でポーンといきなり出てくる、存在感も面白いんですよね。普段は埼玉のさきたま古墳群にたまに行くくらいなので、これから前橋の古墳にも行きたいと思っています。
一今まで前橋へ来ることはありましたか？
小・中学校の時にアイスホッケーをしていたので、敷島公園の近くのスポーツセンターのスケートリンクに試合や練習で行っていたのが一番の思い出ですね。前橋の印象は、平地、平らな所だと思います。伊香保は坂が多く、坂の中で生活しているような感じだった

たので。前橋は、最近では美術もすごく活発になってきたなと思っていて、アーツ前橋が出来てからはよく来るようになりましたね。
一滞在制作ではどんなリサーチをする予定ですか？
とりあえずいろいろな場所へ行って、歩き回ってみたいです。人に会ったり、風景を見たり、山を歩いたりして、いろいろ見てみたいです。前橋は地元から近いですが、その場所に身を置いて生活することが全然なかったので、滞在制作を通してまた違う景色が見えてくるのではないかと考えています。具体的には、大室古墳群や総社古墳群、博物館に行こうと思っています。あとは、大胡町出身の横堀角次郎よこほりかくじろうという作家のリサーチをする予定です。同じ群馬出身で、風景や静物画を題材に描いている人なので面白そうだなと思うのと、自分が好きな岸田劉生きしだりゅうせいや萬鉄五郎といった作家と同じ時代の人でもあるので。
一滞在制作自体も初めてということですが、やってみたいことはありますか？
交換留学でバリに行ったりはしていましたが、滞在しながら制作するのは初めてです。滞在制作だからといって、何かやり方を変えようとは思っていないのですが、滞在中に協力してくれる人が出てきたら、積極的にいろいろと聞いてみたいです。アーツ前橋の資料を見せてもらったり、ここでしか出来ないことがあるのではないかと思います。あとは、群馬にもこういう絵を描く人いるんだと知ってもらえるきっかけになればいいですね。

〈今後のスケジュール〉

滞在制作後半の2017年9月23日(土)・24日(日)には、笠野スタジオ(前橋市千代田町2丁目4-1)にてオープンスタジオ(13:00~19:00)を実施するほか、10月27日(金)から11月5日(日)まで横浜市のBankART Studio NYKで開催される「BankART Bank Under35 グループ展」にも作品を展示予定。

KOROMO SHINICHIRO
衣 真一郎

1987年群馬県渋川市伊香保町生まれ。2013年東京造形大学絵画専攻卒業。2014-15年パリ国立高等美術学校交換留学。2016年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。風景や静物、人、建物等の身近にあるものをモチーフに絵画と立体による作品を制作。近年の主な展示に、2017年「群馬青年ビエンナーレ 2017」群馬県立近代美術館(群馬)、2016年個展「Town」switch point(東京)、「アートアワードトーキョー丸の内2016」(東京)など。

群馬県庁昭和庁舎

90年近い歴史を持つ昭和庁舎は、1928年（昭和3年）に群馬県庁本庁舎として建設された鉄筋コンクリート造の洋風建築で、設計は、早稲田大学の建築科を創設し、数多くの庁舎建築を手がけた佐藤功一によるものです。

一階には天然石に似せて精巧に作られた擬石タイル、二・三階には大正から昭和にかけて流行し、「帝国ホテル旧本館」にも使用されたスクラッチタイルが施された外観は、2001年の改修を経て、昭和初期に建設された当時の雰囲気も色濃く残っています。

庁舎内の天井に見られる特徴的な曲線の梁は、各階の階段室にもかかっており、空間を連続して仕切る役割を果たすだけでなく、全体に安心感やゆわかさを感じさせ、統一感のある空間を演出しています。

まえばし 古墳探検隊

突然ですが、皆さんは古墳に行ったことはありますか？
群馬県は、古墳時代（3世紀後半～7世紀頃）にヤマト政権が東日本での重要な拠点を置いていたことから、古墳が多く残っている地域なんです。前橋にも分かっているだけで、130基以上の古墳があるのだそう。今回は、西大室町にある大室古墳群と市中心部からも近い総社古墳群を訪ね、古墳探訪を楽しむための見どころを調査しました！



大きいですね！

あれが
前二子古墳です



この奥は
どうなってるん
でしょう？



前二子古墳

石室の入り口を発見！



おむろ
大室古墳群



大室公園
園内には大室古墳群や
五料沼、広大な芝生広
場などがあり、古墳を
巡りながらの散歩も気
持ちいいです。

内堀遺跡群 M-1 古墳



板垣さん（以下 I）まずは、前二子古墳へ行ってみま
しょう。

ワグネルさん（以下 W）すごく大きな古墳ですね！

I 全長は堀を含めて150メートル近くあります。こ
こが石室の入り口です。

W すごい！探検って感じでワクワクしますね。

I 横穴式の石室ですね。実はこうして石室の中に入
ったり、登ったりできるのは関東ならではの。関
西では天皇陵とされている古墳が多いのでなか
なか体感できません。

W 奥に何かありますか！

I 埋葬された様子が分かるように土器や埴輪が展示
されていますね。この石室の壁は、ベンガラ（※注）と
いう塗料で赤く塗られています。

W 真っ赤な部屋なんて格好いいですね！

※土から採れる酸化鉄を用いた赤色の顔料

板垣泰之さん

2017年4月に岩手県から前橋市へ移住。
普段は公益財団法人群馬県埋蔵文化財事
業団に勤務し、群馬県内の遺跡から出た
出土品の研究・調査の仕事をしています。
博物館・美術館・古墳巡りが趣味で、古墳
の目の前に家を立てようとしたことがあ
るほど。



みな
ワグネル南奈さん

群馬大学社会情報学部4年生。「高崎スタ
イリングコレクション」など、群馬県内
で行われるファッションショーやイベント
の企画・制作・運営に携わる。自身もモ
デルとして活躍中。古墳で撮影をするの
は今回が初めて。



はにわ館



お似合いですよ！



民家園

こんにちはー

出土した石器や土器、埴輪を見学できるはにわ館、江戸末期の赤城型民家を再現した民家園など、大室公園は古墳以外にも見どころが満載。

I ここは内堀遺跡群M-1古墳です。上に登ってみま
しょう。M-1という名前は調査の時に付けたものです。

W 小さな山のような形が可愛いですね。

I 一見、円墳に見えますが、実は帆立貝形古墳とい
って、小さな方形の張りだしが付いているんですよ。

W 遠くの景色までよく見えますね。

I 当時の権力者が自分の領土を一望できるように、
古墳は高台に造られることが多かったようです。も
しかすると、古墳から見る景色は当時から変わって
いないのかもしれませんがね。

W 群馬にはどうして古墳が多いんですか？

I 古墳時代のこの地域は、ヤマト政権が東北地方を
治めるための重要な拠点でした。都のヤマト政権の
影響を受けた有力者が、都に倣って古墳を築いたん
だと考えられています。

W 古墳はなぜ造られなくなったんですか？

I 7世紀に入ると人々の考えが変わって、大規模な
古墳は造られなくなってしまったんです。そこへ仏
教が入って来て、完全に廃れていったと言われてい
ます。

古墳の
カタチ



前方後円墳



前方後方墳



方墳



円墳



帆立貝形古墳

古墳といえば、鍵穴の形に似た前方後円墳の
イメージがありますが、後部が四角い前方後
方墳、前方部が短い帆立貝形前方後円墳など、
様々な形があります。



王山古墳

交通量の多い交差点に面した公園が、実は6
世紀に築かれた古墳だったとは…。墳丘に敷
き詰められた河原石の一部が観察できます。

蛇穴山古墳と宝塔山古墳に隣接する資料
館では、総社古墳群や山王廃寺について
の詳しい解説や資料が展示されています。



前橋市総社歴史資料館



宝塔山古墳



直線的にカットされ、複雑に組まれた石壁に技術の向上がうかがえる。
石棺の脚には仏教の影響を示す曲線的なデザインが施されていました。



蛇穴山古墳



昔の人って
すごいですね



ロマンですか！

古墳はロマン
ですよ！

I 次は市街地の古墳に行ってみましょう。総社地区
にある6つの古墳を総社古墳群と呼んでいます。前
橋には住宅地の中にもたくさん古墳があるんですよ。

W 前橋全体にはどのくらい古墳があるんですか？

I 古墳の総数は1542基あったとされています。しか
し、現在も残っている古墳は136基です。そのうちの
30基は国や県、市の指定を受けている古墳です。発
掘調査によって新たに発見される古墳もあるので、
本当はもっと多いかもしれません。

W 家の近所に、まだ見つかっていない古墳があるか
もしれないと思うと、ワクワクしますね。

I 神社やちょっとした公園になっている小山が、実
は古墳だったということもよくあります。注意して
探してみると面白いと思いますよ。

I 宝塔山古墳は、7世紀後半に作られた古墳です。石
室の石がテトリスのように組まれていて、個人的に
好きな古墳です。

W 入り口も、大室の古墳とは印象が全然違いますね。

I 少し隣にある蛇穴山古墳もそうですが、大小の石
が正確にカットされていたり、後の時代になるほど
複雑な技術が使われてきます。この石棺にも、仏教
の影響と思われる装飾が施されているんですよ。

W 一つひとつに違った特徴があって面白いです。
もっといろいろな古墳に行ってみたくありませんか！

参考文献：
『東国の雄 総社古墳群』前橋市教育委員会事務局 文化財保護課,2017
『前橋市 大室古墳群～前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳～』
前橋市教育委員会事務局 文化財保護課,2017

「私のお気に入りの観音様」三輪途道

我が家には「かんちゃん」と呼んでいる木彫で高さ20cmほどの観音様がいらっやいます。かんちゃんという名前は娘が付けた名前です。

この観音様は、夫が高崎市の骨董屋で見つけたもので、夫の勧めで私も気になって、お店まで観音様に会いに行きました。もちろん即断即決、その日からかんちゃんは、我が屋の一員になりました。私の見立てでは、かんちゃんの制作年代は鎌倉期、熟練の仏師の仕事で、多分体内仏か念じ仏として作られたものと思います。骨董屋さんからは、興福寺の千体仏の一体だろうと聞いてはいますが、そのあたりの事実関係はさておき、手に取った一瞬で、相当のレベルの仕事だと判りました。彫りに迷いがなく、細部まで彫り込んだものではありませんが、ざっくり彫った段階で、造形上のツボが見事にはまっています。いかに鎌倉期に仏像仕事大量にあって、優秀な職人が数多くいたであろうことが、この観音様から透けて見える気さえしました。

かんちゃんを買った骨董屋さんは、高崎にあるからこそ、私でも買える値段で価格設定をしていますが、これが日本橋にあったら、値段は倍では済まされず、一桁違うかもしれないと思います。このお店は仏像専門の骨董屋ではなく、陶器やガラス、机や筆筒など守備範囲は広く、玉石混交です。自分の眼力だけで探す楽しさ満載です。

せっかくですので、お店の名前のヒントだけ書いておきます。あてていく1、2、3、4、5、……です。探してみてください。



三輪途道 (みわ・みちよ)

1966年下仁田町に生まれる。1989年東京造形大学彫刻科卒業、1994年東京芸術大学大学院保存修復技術専攻修了、1996年ギャラリーグラフィカbisで初個展。その後2001年高崎市美術館、2006年発電所美術館で個展開催。2013年「カゼイロノハナ 未来への対話」(アーツ前橋)に出品。日本美術、特に仏像技法をバックグラウンドに木彫で日常を作品化する。

アーツ前橋では、平成28年度に64点の作品を新たに収蔵しました。前橋市がこれまでに収蔵してきた作品は約710点になります。これらの美術作品は、市民にとって大切な宝ものであり、未来へ残して伝えていく贈り物です。ここでは収蔵作品と作家を紹介します。



人間の感情をゆさぶる映像表現

小泉明郎 《捕われた声》
KOIZUMI Meiro “Trapped Words”
2014 (平成26) 年 シングルチャンネル・ビデオ・インスタレーション 11分23秒 2015年度購入

小泉明郎さん(群馬県邑楽郡生まれ／1976-)は、イギリスで映像表現を学んだのち、映像やパフォーマンスによる作品を発表し、国内外で高い評価を得ています。映像作品は自身がパフォーマンスを行う作品から、演者を使う作品まで、一貫して人間が映し出されます。なかには小泉自らが画面のなかに入り、演出を加えていく作品など特異な表現が見られますが、これにより演者やそれを取り巻く周囲から偶発的なアクションを引き出します。

《捕われた声》は、前橋空襲の体験者・原田恒弘さんをモチーフにした作品です。原田さんは7歳の時に前橋空襲を体験し、現在は語り部となり戦争の悲劇を伝えている方です。原田さんが逃げ込んだ小柳町の防空壕は、前橋でもっとも大きな被害があった場所として記録されているところです。原田さんは防空壕のなかで知らぬ女性に守られたことで、たった一人だけ、その防空壕のなかから生き延びることができたそうです。小泉さんはこの作品でも、ドキュメント映像のように単に歴史の生き証人として原田さんの証言を拾い集めるのではなく、劇映画のようなシナリオを用いてストーリーを構築するのではなく、原田さんが防空壕のなかで聞いた言葉から音までの記憶を丁寧に引き出し、原田さんの当時の心理変化や感情までを吐露させています。

TOPIC

あ一つひろば

「今日、何して遊ぶ？」
を支える空間



「あ一つひろば」は、アーツ前橋を身近に感じられるイベントとして、年間4～5回程度工作やアーティストのワークショップや鑑賞ツアーを実施しています。普段は通路である交流スペースに材料を準備し、アーツ前橋サポーターさんたちと子どもをはじめとした参加者をお待ちしています。

使用するテーブルとクッションは、「あ一つひろば」のためにオリジナルで制作しました。テーブルは、昨年度の群馬大学教育学部美術専攻のデザインの授業課題(指導：齋江貴志先生)で、学生さんたちが協働で考え抜いて制作。台形のテーブル12台は、決して広くはない館内でパズルのように組み合わせ、イベント内容に合わせた配置に出来ます。参加者のコミュニケーションや心地よい距離感を念頭に天板の角度やサイズを決め、角を丸くして安全面も配慮しています。

更に、小さな子どもたちが机で作業がしやすいよう、高さを調整するクッションも作りしました。カバーの布は、鈴木順子さん(障害者支援施設 赤城野荘)のアドバイスのもと、子どもから大人までの参加者と交代しながらせつと機織り。完成した表情豊かな布はサポーターさんたちと縫製し、敷物である人工芝の上に置くと野原に花が咲いたようにも見え、温かい雰囲気作りに一役買っています。

「アーツ前橋って小さな子どもと行ってもいいの？」という方も、多くの方の手で作られ快適になった「あ一つひろば」へ、まずは気軽に遊びにきてください。



まえばしぶんか探索隊

うしろまえばし

「うしろまえばし」はアーツ前橋のアートスクール受講生が立ち上げたプロジェクト。街を歩いて気になるものをアーカイブしていきます。活動はFacebookでチェック！

<https://www.facebook.com/ushiromaebashi/>

「アーケードの銘板」

弁天通りのアーケードは「柿木式アーケード」というそうです。いかにも由緒ありそうな名前ですね。(隊員A)

まえばし COLLECTORS FILE #8
コレクターズ・ファイル

街の人が集めているものを紹介してもらうコーナー。
それがなんであれ、好きならば集めてしまうのが人というもの。
集めればそこに新たな美が宿る？



映画のパンフレット
5000冊以上
映画関連グッズ
50点以上

15歳で映画館通いを始めて以来、映画の虜に。昔は前橋にも幾つか映画館があって、街中のオリオン座や、けやき並木通りにあった前橋文化映画劇場へはよく通っていました。今でも年間80回以上は劇場へ行き、観た作品のパンフレットは必ず購入します。好きなジャンルはSF、アクション、特撮系で、グッズやフィギュアを集めるのも好き。お気に入りの、日本の造形作家がH.R.ギーガーへのオマージュを込めて製作した、映画「エイリアン」のフィギュアです。



Bar 宇野
斎藤陽一さん

情報求む！ 前橋で「こんな面白いモノを集めている人がいる！」という情報があればアンドアーツまでお寄せください。

滞在制作アイデア

滞在中には実現しなかったけれども、前橋のまちなかに滞在したからこそ生まれたアイデアを紹介します。

● 絹の川

前橋の人々が住む家のかたちを船の上に再現し、かつての糸をつかった装飾を加える。広瀬川にそれを流し、周辺の街の風景とあわせて映像で撮影する。

● 世界の文字、危機の文字

萩原朔太郎が生まれ、詩人を多く輩出した街として言葉に意識を持ってほしい。漢字のような象形文字が現在消えつつあるので、そうした文字をデザインし、大きく壁に張り出す。

ARTIST

ペ・ヨンファン BAE Young Whan (韓国)

滞在期間：25日間
2011年8月14日～27日 / 10月2日～12日

● 散歩プロジェクト

散歩中の風景を撮影する映像。家族や親子など親密な関係の人同士が参加し、風景をアーカイブする。ふたつの映像を通して、自分とは違う他人への配慮やコミュニケーションなどが感じられる。

● トゥモロー・ライブラリー・プロジェクト

コミュニティから外れてしまうような子どもが利用できる場所に気軽に自分の好きな本に囲まれて過ごせる空間をつくる。移動可能なコンテナを地域の人々が好きに装飾して、子どもが漫画を読んだりしながらゆっくり過ごせる空間にする。災害の被災地にも持っていく。

EVENT

まちなかイベント情報

「イトシコノミヤ」

2017年9月15日[金]~25日[月]

Gallery Artsoup

イメージ(絵・写真)×テキスト(詩・文章)による作品と、
装飾を交えた展示を予定。第2回目のキーワードは「赤子」。

「前橋オクトーバーフェスト 2017」

2017年9月29日[金]~10月1日[日]

前橋中央イベント広場

屋外でビール祭り! 様々なビールやおつまみブースが出るほか、
ステージショーなどもあり、賑やかに楽しく過ごせます。入場無料。

「前橋めぶくフェス」

2017年11月3日[金・祝]~5日[日]

前橋中心商店街、前橋中央イベント広場

小さな芽吹きを応援するお祭り「前橋めぶくフェス」が開催されます。フード、クラフト、
アートの3部門で構成され、県内から様々な作り手が集結します。入場無料。

EXHIBITION

アーツ前橋 展覧会情報

アーツ前橋 × 前橋文学館共同企画展

「ヒックリコ ガツクリコ ことばの生まれる場所」



鈴木ヒラク 《Constellation#01》2016年
前澤友作氏蔵 ©Hiraku Suzuki

関連イベント

「ヒックリコ ガツクリコ トーク」

なぜ今「ことば」について考えるのか。現代における
言葉の問題について、展覧会参加作家や文学/言葉の
専門家を招いたトークイベントを開催します。

2017年10月20日[金]~2018年1月16日[火]

開館時間: アーツ前橋 11:00 ~ 19:00 (入場は 18:30 まで)

前橋文学館 9:00 ~ 17:00 (入場は 16:30 まで)

休館日: 水曜日、年末年始(12月28日(木)~1月4日(木))

会場: アーツ前橋、萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館

観覧料: 共通観覧券 一般 700円 / 学生・65歳以上・団体(10名以上) 350円 /
高校生以下無料

アーツ前橋と前橋文学館は、このたび「ことば」をテーマにした共同企画展を開催します。
「ヒックリコ ガツクリコ」とは、萩原朔太郎の未発表詩に書かれたオノマトベで、夜の
街を詩人が歩いていく様子を表したものです。

人は、歩きながら誰かと出会い、誰かへ向けて言葉を投げかけます。また、文字にする
ことで、言葉は時間や場所を越えた他者とも対峙する手段になります。言葉は「私」と
「あなた」をつなぐものであり、時代や社会の変化と共にそのあり方も役割も変化します。
本展では、萩原朔太郎からオノ・ヨーコまで、近現代の文学と美術の表現を「ことば」
という切り口からご紹介します。表現者たちがそれぞれの「ことば」を通して時代の空
気をどのように捉え、世界と対峙しているのか、ぜひご覧ください。

2017年10月21日[土] 第1部 14:30 ~ 16:00 / 第2部 16:30 ~ 18:00

会場: 前橋文学館 3階ホール 参加費: 無料

登壇者: 【第1部】平川克美、文月悠光、萩原朔美

【第2部】名見耶明、鈴木ヒラク、住友文彦

申込方法: 事前申込制 / 前橋文学館へ電話で申込みください (Tel.027-235-8011)

そのほか関連イベントはアーツ前橋公式サイトをご覧ください。

今月のおすすめ

by

アーツ前橋ショップ mina



東上野町の「わーくはうす すてっぷ」の利用
者が、1日5個くらいのペースで10年以上
コツコツと作り続けているという陶器のオー
ナメント。アートな画びょう「がびよん」400
円。マグネット「くつつ君」320円。

&Arts ISSUE 11 アンドアーツ 第11号

発行: 平成29年9月15日 企画・発行: アーツ前橋 制作コーディネート・編集: 一般社団法人前橋まちなかエージェンシー
ライター: 遠藤千尋 アートディレクション・デザイン: 殿岡 渉 (あしか図案) 写真: 上原ミワ

アーツ前橋 〒371-0022 群馬県前橋市千代田町5-1-16 TEL: 027-230-1144 FAX: 027-232-2016 www.artsmaebashi.jp